

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100064		
法人名	有限会社ながしま		
事業所名	グループホームながしま		
所在地	青森県青森市中央3丁目1-3		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念を共有し、ケアの質の向上を目指す為に、職場内、外の研修に参加し、知識を取り入れる事に努めている。又、地域との交流にも力を入れております。 災害時の体制についても近隣者の協力を得る体制を作っています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>街中の立地を活かし、地域との交流を積極的に行い、地域にとけ込んだ事業所である。内部・外部の研修へ意欲的に参加し、その結果は全職員へ報告されている。又、代表より毎月理念の説明があり、明るい雰囲気であった。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年10月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を提示し、常に目に付くようにしている。又職員採用時や職員会議には、管理者より説明をされている。又介護計画書立案時施設の理念を心がけ作成している。	介護理念・運営理念が作成され、各フロアに掲示されている。採用時や職員会議等で代表者・管理者より地域密着型サービスの意義について説明され共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事等を通し交流しており、又地域でのリサイクル活動に参加する他、地域の交遊会へも招待していただいている。	町会に加入し、事業所主催の行事、または町会主催の交遊会への参加等、積極的に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている。又、地域の回覧板に広報誌を入れて頂き、事業所の活動をより多くの方々にとって頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の年間の議題を参加者で検討し話し合いをしている。懸案事項に関しては経過報告をし現在取り組んでいる内容を報告し意見を頂いている。その後の職員会議で報告され全員が共有している。	会議には家族・行政・町内会の方も参加され、活発な意見交換がなされ、その結果は職員に周知されている。又、会議において指定避難場所や事業所主催の救急法講習会への参加を呼びかけ実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を遂行する為に分からない事や疑問点など保険者に聞きアドバイスを頂いている。又、運営推進会議に参加して頂いたり連携を図り取り組んでいる。	市役所に近い立地を生かし、積極的に担当者と面談し、防災計画・避難計画・保険等についてアドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として、鍵を掛けないよう職員会議で管理者より説明し理解を得ている。日中は玄関の鍵を掛せず、又、事業所独自のガイドラインマニュアルも作成されている。	職員が原案を作り、修正されたマニュアルが整備され掲示されている。職員はミーティング等で話し合い理解され、共通の認識の下、ケアに取り組んでいる。日中、玄関は施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表より、職員会議において説明があり、虐待が無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人を利用している方もいる。今後も必要と考えられる利用者がいた場合カンファレンスを通じて検討をし、家族と共に検討していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時オリエンテーションの時間をとり説明を行い、家族及び本人の意向を聞きケアに反映できるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見要望を聞き、反映出来る様にしており、意見箱の設置も行っている。又、その時々を利用者の不安、意見等はユニットにてその都度話し合いを行う他、面会時に本人の状態を伝えている。	事業所内には意見箱が設置されている。利用者・家族等が気軽に意見・願い等を話せる雰囲気作りがなされている。特に家族との面会時、話し合いを柔軟にされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全員参加の職員会議を実施し全員が意見を述べる機会を設けており、反映させている。又、自己申告書に基づき、個人面談にて意見を聞く機会も設けられている。	月1回、職員会議、各委員会の報告時等職員は積極的に意見を述べている。又、全職員は自己申告書を提出し、代表者が面談し意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の就業規則に基づいて整備している。又働きやすい環境づくりを目指し勤務希望等も考慮している他、自己申告書を実施しやりがいも見出せている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を実施している他、職場外研修にも参加し、職員会議にて報告会も行われている。又、介護福祉士資格取得に向けての情報提供も職員会議の都度行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外研修後の懇親会参加や協会開催の交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、事前面談を行い生活の状況の把握に努め本人の求めている事を理解出来る様に努めている。入所後は必要とする事や不安を理解する様にし対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は、本人の状態を把握するために事前に面接したり、施設を見てもらい、本人及び家族の施設に対する意向や不安を取り除くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった場合は、まず施設を見学して頂き、ご本人に必要なサービスが受けられるかどうか、施設の特徴等説明し、担当ケアマネの意見を充分聞きながら対応し、早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り等を共同で行なったり、支援する側される側と言う意識を持たず、協働しながら和やかな生活が出来る様、場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や、気付きについての報告を2ヶ月に1回書面にて送付する他、面会時にも報告し家族と共に本人を支えていく為の協力関係が築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの病院に通院していたり、継続的な交流が続けられる様に支援している。	家族の依頼を受け、入居者の2/3が、職員の送迎で以前からのかかりつけ医を利用されている。ろうあ者は県ろうあ協会と連携し、継続的支援が続けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性について席の配慮を行い、作品作り等、共同で行う時間を設けたり時には調整役となり支援している。又日々変化する方もいるので注意深く見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、いつでも相談に来られるよう働き掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、受容的態度で接しながら言葉だけでなく、表情、態度等も観察し、把握に努めている。又意思疎通困難な方には馴染の職員を介して会話し、介護計画書に反映するようにしている。	職員は介護理念にある、聞き上手になることをモットーに表情・態度を観察し、一人ひとりの思い・意向等に常に関心を払っている。又、ろうあ者とのコミュニケーションを確かなものにする為手話を取得している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネからの情報提供を又入居後の家族とご本人との係わりからアセスメントし記録し、把握する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを理解すると共に、出来る事に目を向け伸ばせる様に支援し、行動や小さな動作等からも感じ取りその人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の係わりの中で意見を聞く他、月1回のカンファレンスの際、担当者以外の職員も参加し意見交換する事により介護計画の作成に活かしている。	介護計画は家族と常に連絡を取り、本人・家族及び全職員で話し合い、職員の気付き等も含め検討し、作成されている。状況の変化に応じ対応し見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し日々の暮らしの様子や気づきを記録し職員同士の情報共有も徹底しており、ケアプラン変更時に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院希望や物品購入に関しても柔軟に対応をし個別の満足を得られる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との様々な接点を見出す為運営推進会議で検討しながら行っている。町会より働き掛けのあった交遊会に参加をした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっているが不可能時は職員が代行している。又訪問診療にきてもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	利用契約時、本人・家族の意向を確認し関係を継続できるかかりつけ医となっている。又、町内の開業医の往診もされている。現在は入居者の2/3が職員の送迎で受診されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護職員が出勤して健康管理を行い、状態の変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換をしながら、回復状況等を把握し速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時「重要事項説明書」にて説明している。又ご家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い支援につなげている。	入居時、家族と話し合いを重ね、施設・医療機関の紹介や情報提供がされ、方針の共有が図られている。職員全員の意識も確認されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所独自の緊急時対応マニュアルを作成し、周知徹底の為の職場内研修も行っている。H20年、23年と消防署の協力を得て普通救急救命の講習会を実施したが、職員の異動に伴い未講習者もいるので、今後、講習出来る様に支援する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、利用者の避難誘導の訓練を行っている。又、消防設備会社の協力を得て火災報知機、消火器等の使用法についての訓練も行っている。近隣の協力者も得て緊急連絡網の整備もされている。	マニュアルが整備され避難訓練が実施されている。職員の火災報知機・消火器の使用訓練も行っている。災害時、隣人・近隣の協力者も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や職員会議において、言葉掛けや対応について取り上げ、学び、意識向上を図ると共に、日々の対応の中でプライバシーを損ねない対応をしている。	介護理念に掲げられている人間としての尊厳を守るよう職員は一人ひとりの思いや意向を日々のかかわりで把握するよう努めている。職員会議や研修等でも話し合われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めた事を押し付ける様な事はせず、利用者が希望を表したり自分で決める場面を作っている。利用者に合わせて声掛けをする他、表情や言動にも気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った様な過ごし方はしていない。又買物や散歩等一人ひとりの思いに配慮しながら柔軟に対応できる体制となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ際、本人と共に行い、自己決定が難しいと思われる利用者には職員が考え支援している。又外出時はいつも以上にオシャレをして頂き、理美容院については希望に応じ対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い献立に取入れたり昼食のみ利用者と同じテーブルを囲んでいる他、月1回利用者が食べたいと言った物を利用者と作り楽しく食事が出来る雰囲気と安全や嗜好に対応している。又、片付け等を共に行っている。	食事は栄養士作成のメニューが中心だが、「皆で作ろう会」を立ち上げ、月1回利用者と相談し食事を作っている。又、手作りおやつも実施されている。食事はとても和やかで明るい雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は関連事業所の栄養士が作成している。個々の食事摂取量をチェック表に記録し、個別に必要な利用者は水分量も記録している。又、食事形態は個別に刻み食等も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い残存能力に応じて見守りや介助を行い就寝前には義歯洗浄を行い必要があれば保管もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間や習慣を把握し 排泄表を作成し、パターンを掴み声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	職員は排泄表を活用し、自尊心に配慮しながら一人ひとりのサインを把握・共有し、個別の排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	時間や習慣を把握し 排泄表を作成し、パターンを掴み声掛け誘導を行い、トイレでの排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴の曜日設定はされているが、希望があれば入浴できる体制は取れている。又拒否しがちな方は状況に合わせてシャワー浴で対応もしている。	基本的には入浴は週2回となっているが、本人の希望で柔軟に対応され、いつでも入浴できる体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促したり生活のリズムを整える様に努め一人ひとりの体調や表情年齢を考慮しゆっくり休息が取れる支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、処方箋を保管し個々の薬の変化がわかる様にしている。又、変更があった場合は申し送りをし、観察と記録をしており、看護師や医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮してもらえる様、依頼し感謝の言葉を伝えている。又、嗜好品の煙草、コーヒー、アルコール等も本人の楽しみとして提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じたり、又季節を感じて頂ける様、日常的に散歩に、出掛けられるよう支援している。	本人の状況や気分、天候等に応じ近くの商店・コーヒー店等に積極的に外出している。週1回定期的に近くのスーパーへ買い物にも行かれている。又、日常的に散歩へ出かけられるよう支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小遣いを管理し外出や買い物の際、自分の財布から支払いをすることで社会性の維持につなげている。又お金を所持していない方でも外出時は自分で払って頂ける様、施設で立替している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の設置はしていないが必要に応じ、利用者が家族等に電話掛けたり、受けたり又手紙も本人に書いて頂き出せる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を飾ったり、季節に合わせた飾り付け用の作品と一緒に作り飾ったりしている。又、温度、湿度のチェックを行い調整し、居心地の良い空間作りを工夫している。	共用空間は採光も適度で、テレビの音量も調整されている。飾り付けは季節感・生活感があり、家庭的な雰囲気である。居室のネームプレートにはいろいろな色の折り紙が付けてあり、間違いがないよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前駐車場に椅子を置いている他、食堂にはソファ、洗面所前等にも椅子を置き一人で過ごしたり、中の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分好みの物を(写真・人形・ぬいぐるみ)等飾り、利用者の居心地の良い場所となる様家族と相談しながら行っている。	居室は本人・家族と相談し、本人の希望する小物が置かれ安らぎが感じられる。又、ベットは2種類が用意され、本人の体調に合わせて使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に利用者の使いやすい高さで手すりを付けている。又トイレは車椅子でも使用できるように広くとっている。		